

# 目黒清掃工場建替工事の概要 及び進捗状況について

目黒清掃工場は、令和5年3月のしゅん工に向けて建替工事を進めています。今回は、建替工事の状況を紹介します。

## 建替工事の概要

東京二十三区清掃一部事務組合（以下「清掃一組」という。）は、23区が一般廃棄物を共同して中間処理するために設置した特別地方公共団体です。

清掃一組では、安定的で効率的な全量処理体制を確保するため、一般廃棄物処理基本計画を策定し、計画的な施設整備を行っています。

目黒清掃工場は、この計画に基づき、約26年稼働した旧目黒清掃

### 【施設概要】

- 所在地：東京都目黒区三田二丁目19番43号
- 敷地面積：約29,000㎡（緩衝緑地含む）
- 工場棟：鉄骨鉄筋コンクリート造  
（一部 鉄筋コンクリート造、鉄骨造）  
地上5階／地下3階 高さ 約24m
- 管理棟：鉄骨造地上3階 高さ 約14m
- 煙突：高さ約150m
- 焼却炉：全連続燃焼式火格子焼却炉（廃熱ボイラ付）
- 焼却能力：600トン/日（300トン/日・炉×2基）
- 発電設備：定格出力 約21,500kW



【旧】目黒清掃工場（平成29年10月撮影）

工場（以下「旧工場」という。）を解体し、新工場を建設する建替工事を行っています。工期は、解体工事を含め、平成29年6月から令和5年3月までの約5年10か月となっています。

新しい目黒清掃工場は、旧工場と同様、1日当たり600トン規模の焼却能力があります。焼却炉は、最新の燃焼管理システムで制御され、旧工場よりも効率的で、安定したごみ焼却を行うことができます。

また、排ガス中に含まれる有害物質は、いくつもの公害防止設備で除去されます。

さらに、周辺環境への配慮として、構内道路の一部を屋根で覆うことにより、騒音の低減及び臭気対策を図っています。



全覆い仮設テント（令和元年9月撮影）

## 建替工事の進捗状況

平成29年6月から始まった建替工事は、現在、建設工事の途中で、令和4年9月末の段階で建築工約97パーセント、プラント工約98パーセントで、総合では約98パーセントの進捗率となっています。

### 解体工事について

解体時に発生する騒音の低減及び粉じんの飛散防止のため、受注者の技術提案により、工場棟については、全覆い仮設テントを用いて解体を行いました。

煙突については、同様に周辺環境に配慮した解体工法として、外筒上部は分割して切断する工法とし、下部は全覆い仮設テント内で重機による圧砕解体を行いました。



【新】目黒清掃工場建設状況（令和2年9月撮影）



煙突外筒解体状況

## 建設工事のしくみ

旧工場の解体後、掘削を行い、工場棟のごみバンカ等の地下く体を構築し、焼却炉設備、公害防止設備、発電設備等のプラント機器を設置しました。

工場棟も、プラント機器の設置と同時に建築工事を進めていきました。

煙突外筒については、スリップフォーム工法で施工しました。スリップフォーム工法とは、コンクリート型枠装置を上昇させながら連続的にコンクリートを打設していく工法です。

本代替工事では、緩衝緑地の整備工事も併せて行っています。

現在は、プラント機器の試運転を行いつつ、残りの工事等を進めています。



ボイラドラム設置状況



焼却炉内部



ごみバンカ



茶屋坂から見た煙突（塗装中）



【新】目黒清掃工場建設状況（令和4年8月撮影）



整備後の緩衝緑地

### 代替工事の工程表

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
解体工事	■					
建設工事		■				
試運転						■

## 今後の予定

令和4年10月から開始している試運転を継続し、その間に各種官庁検査を受検していく予定です。

引き続き、23区の共同処理による安定的で効率的な中間処理体制に貢献するため、令和5年3月の新しい目黒清掃工場の完成を目指し、代替工事現場一丸となって安全に工事を進めてまいります。

（東京二十三区清掃一部事務組合 建設部建設課）